

- 2… 座談会=ハッサンさん平和を語る  
 6… 青年探偵団⑥ 真面の滝を探る  
 8… アメリカはなぜ?イラク戦争に……  
 10… 吹田溺愛主義④ 牧野富太郎の笑顔  
 12… 吹田市民の戦争史④ 萩原昭夫さん  
 13… 沖縄取材ノート②「十九の春」物語④  
 14… 戦火を超えたアスリート⑥ 浪商  
 15… いわみせいじのヨコシマ日記⑧



画・高宮良子

JR東海道線 岸辺駅

岸部地域は、古来より吉志部と呼ばれていました。住居表示の変更や市町村合併で、由緒ある地名が消えていくのはちょっと寂しいですね。

## ●表紙のことは

JR東海道線「岸辺」駅がオープンしたのは昭和22年。駅名が「岸辺」なので、地元以外の方はこの地域を「岸辺」と誤解されているかもしれない。

実際には「岸辺」という地名はなく、「岸部」が正しい。吹田市岸部地域には、重要文化財の吉志部神社がある。そう、実は地名「岸部」もまた当て字であって、本来は「吉志部」が正解なのだ。

奈良時代、吉志(きし)という豪族が浪速の都(今の大阪城近辺)に住んでいた。その吉志一族に仕えていた人たち(部民)が住んでいたところがこの地域だった。やがてここは「吉志部」と呼ばれるようになった。「吉志部」の地名の起源は古く、初めて書物にその地名が記されたのは、長寛2年(1164年)のことである。

長らく「吉志部」と呼ばれていた地域は、やがて江戸、明治時代に当て字が使われたため、「岸部」とも表記され始めた。

そして昭和45年頃、行政が住居表示を統一。その際「吉志部」ではなく「岸部」に統一してしまった。地元からは「吉志部」の名前を残してほしいという運動もあったが、「議員さんと市役所が強引に変えてしまわしたんよ」(地元住民)。

駅名はどうして「岸辺」なのだろうか?昭和22年まで岸辺駅はなく、そこは土を盛っただけの国鉄職員専用駅だった。東洋といわれた吹田操車場で働く人々のための「停車場」だったのだ。終戦直後、「国鉄職員だけでなく、一般市民も利用できる駅にしたい」と、住民運動が盛り上がる。やがて当時の国鉄が重い腰を上げ、ここを駅として整備した。駅がスタートする際、「市長さん、駅名を決めてください」ということに。古い地図を見れば、この地域まで大阪湾が迫っていた。それで「岸のほとり」という意味を込めて「岸辺」としたそうだ。

吉志部のように、味わい深い古い地名がなくなりつつある。昨今の市町村合併でも、多くの自治体名が姿を消してしまった。たかが名前、されど名前だと思っただが……